

【東京】品川区医師会に40代の新会長が就任、若手医師の積極参加を目指す-三浦和裕・三浦医院院長に聞く◆Vol.1

コロナ禍では「品川モデル」構築に貢献、都から感謝状も

2025年9月3日（水）配信 m3.com地域版

2025年6月、品川区医師会の会長に「三浦医院」の三浦和裕院長（49）が就任した。2012年に父のクリニックを継いだ三浦氏は医師会活動も並行して行い、理事や副会長を歴任。2020年からのコロナ禍では公衆衛生を担当する理事として対応に奔走し、自宅療養者へのオンライン診療は「品川モデル」として注目され、東京都から感謝状も贈られた。「若手がどんどん来るような、活気のある医師会を目指したい」と話す40代の新会長に、就任の経緯や抱負を聞いた。（2025年7月17日オンラインインタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回は[こちら](#)



三浦和裕院長氏（医院ホームページから引用）

会長選実施で「会員にアピールしたかった」

——三浦先生は父のクリニックを承継した2012年から品川区医師会の活動も行い、新型コロナ対応にも注力しました（詳細は『[【東京】医師会主導の品川区PCR検査センター 8月は毎日50件実施-三浦和裕・品川区医師会理事らに聞く◆Vol.1](#)』を参照）。

新型コロナ対応に関しては、品川区医師会としてさまざまな取り組みを行ってきました。診断指標となる独自の診察フローチャート作成、品川区から委託されてのPCR検査センター開設、自宅療養者へのオンライン診療……。当時はまさに「カオス」といった状況でした。複数のタスクを同時に行っていたので、深夜3時に寝て6時には起きる、といった日々が数年にわたり続きました。

中でも印象に残っているのは、2020年に開いた病院向けのキックオフミーティングです。私は当時、医師会の理事として感染症を含む公衆衛生を担当しており、区内に10ほどある病院全てに電話をして回りました。私はその時45歳で、電話先の病院長や幹部の先生方は一回り近くも違う大先輩です。緊張を要しましたが、区内の医療機関が一丸となって新型コロナ対策を行っていくために病院の協力は不可欠でしたので、出席していただきたい旨を自分なりに思いを込めて伝えました。結果、打診した全ての病院が参加してくださいました。病院長クラスの面々が同じテーブルについた場面を見られたときは、「やったな」と感慨がこみ上げましたね。

——中でも、同医師会が主動した自宅療養者へのオンライン診療は「品川モデル」として注目され（詳細は『品川区が先駆的に開始、新型コロナ自宅療養患者にオンライン診療』を参照）、三浦先生はその仕組みを構築した功労者として、2023年に東京都から感謝状を贈呈されました。

私一人で成し遂げたことではないので、感謝されるべきは活動に関わった全員だと思います。例えば、新型コロナ対応を振り返って病院の人はその苦労を話しますが、病院に来院する患者さんは基本的に新型コロナに感染しているかどうかの診断がついています。地域医療の窓口であるクリニックでは、それが分からない中で患者さんに対応していたので、これはどちらも恐ろしい。また、時間の経過に伴って病院内は厳重な体制が敷かれるようになりましたが、車寄せで道案内をする高齢の警備員などは専門的な知識がないまま働いていました。私はそんな場面を見るにつれて、「こんな人たちこそ感謝されるべきじゃないか」と感じていました。たとえ医師がどんなに良い治療をしても、スタッフの印象が悪ければその医療機関はネガティブな印象を抱かれやすいでしょうし、逆もしかりです。医療は、そんなところから始まるように思います。

——そして、2025年6月に品川区医師会の会長に就任します。三浦先生と当時の現職が立候補して会長選挙が行われたといいます。

私が立候補した理由の一つに、医師会長のイメージを一新したい思いがありました。現場の空気感で言うと、医師会で要職に就くことにあまりポジティブな印象を抱いていない人もいます。医師会長になったことを伝えた時、「それは大変ですね」と返されることがあるんです。しかし、少なくとも品川区医師会では2人の医師が「やりたい」と手を挙げました。その様子を会員の方々にアピールしたい思いがありました。「知らないうちに理事が決まっている」などと、医師会にどこか内輪な雰囲気を感じている人もいるかもしれないので、オープンな空気をつくっていきたいです。

——医師会長としての展望をお聞かせください。

若い医師が積極的に活動したくなるような、活気のある医師会にしたいですね。その面ではまず、私が40代で会長になったことが一つのメッセージになれば、という思いです。日本の開業医の傾向と同様、品川区医師会も高齢化が進んでいるので、良い意味での新陳代謝が必要でしょう。古き良き伝統は踏襲しつつ、新しいことにも挑戦していきたいです。

若い先生の中には、地域で何らかの活動を行いたいもののその始め方や進め方が分からない人がいるかもしれません。私でできることであればお手伝いしたいので、何か相談したいことがあればご連絡いただけるとうれしく思います。

◆三浦 和裕（みうら・かずひろ）氏

2004年帝京大学医学部卒。帝京大学医学部附属溝口病院、東京警察病院外科、聖マリアンナ医科大学病院消化器一般外科を経て、2012年三浦医院院長。2025年6月品川区医師会会長に就任。日本外科学会外科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本プライマリ・ケア連合学会プライマリ・ケア認定医。

【取材・文＝医療ライター庄部勇太】

記事検索

ニュース・医療維新を検索

